



MG-LAC 2020年度活動報告



宮城学院女子大学

MG-LAC

(宮城学院女子大学リエゾン・アクション・センター)

地域と連携し、学生の自主活動をサポートします。

宮城学院女子大学は、地域社会と連携し、学生の自主的・実践的な学び、社会貢献の場を提供しています。LAC（リエゾン・アクション・センター）の「Liaison」（リエゾン、連携）という言葉には、学生が教職員と、大学と地域がつながり、協働して活動を創っていくという願いが込められています。学生は大学での学びをいかし、自主企画活動やボランティア活動など、多彩な活動を展開しています。宮城学院女子大学の学生による自主活動への取り組みは、「大学基準協会」から最高ランクのS判定をいただいています。

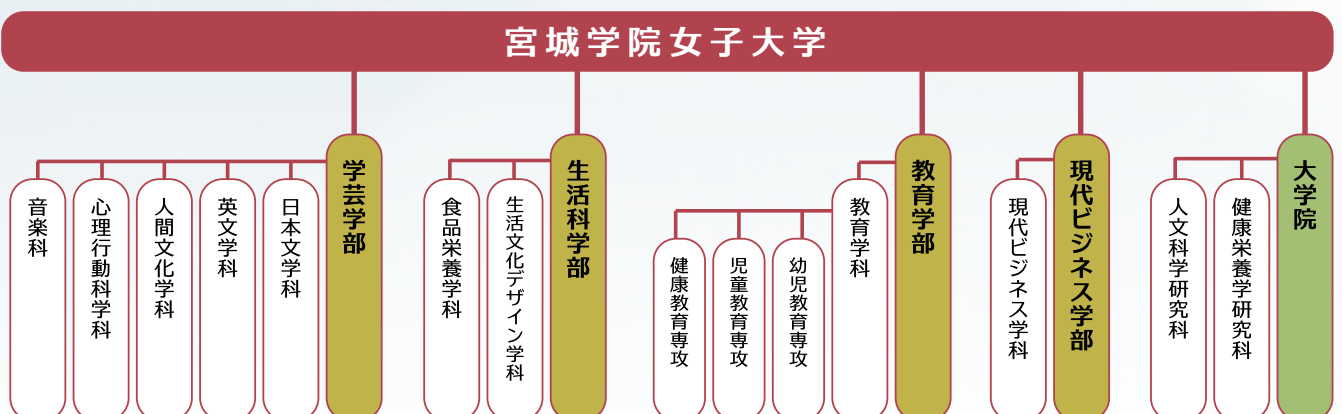
MG-LAC（リエゾン・アクション・センター）

MG-LAC は、大学での学びを生かした学生のプロジェクト型自主活動を支援します。



プロジェクト型自主活動……学生たちが授業やサークル以外で「やりたいこと」に主体的に取り組む活動です。社会人としての基礎力も養います。

宮城学院女子大学 2 研究科 / 4 学部 9 学科



学内ボランティアクラブ

3つの国際奉仕団体、学生組織を擁しています。

現在、宮城学院女子大学には3つの国際奉仕団体の学生組織があります。知見を広げ、社会で責任を果たし活躍する女性となるべく、活動しています。

宮城学院女子大学 ゴールデンZクラブ

女性の地位の向上を目指す世界的な奉仕団体であるゾンタクラブの大学支部として2015年に発足しました。宮城県の魅力や被災地で活躍する女性について取材し、日本語と英語で世界に発信する活動など、女性の自立支援につながる活動を行っています。

<https://mgugoldenz.wixsite.com/mgugoldenzclub>

 mgugoldenz



宮城学院女子大学 さくらレオクラブ

2017年8月に発足。国際的な社会奉仕団体ライオンズクラブの大学支部として、奉仕活動を通してリーダーシップ等を育成するプログラムを行っています。「咲かせよう 奉仕の心」をスローガンに、様々な奉仕活動に取り組んでいます。

 sakura_leoclub  mgu_sakura  @928uostr



サークルK 宮城学院女子大学

子どもたちのための奉仕団体である国際組織キワニスクラブの国内4番目の学生支部として2018年2月に認証。子ども食堂、水の森児童館での学習支援など主に子ども支援の分野で活動しています。

 circlek_mgu



ボランティア活動報告



佐久間 千佳 | 教育学科 児童教育専攻 2年

友達に誘われたことがきっかけで、大原小学校でのボランティアを始めました。普段の活動では、授業中に学習支援を行ったり、休み時間に鬼ごっこをしたり、お話をしたり、子どもたちとたくさん交流し仲を深めています。学校だけではなく地域の行事にも参加し準備を手伝うなど、これまでに色々な方と関わってきました。しかし、2020年度はコロナウイルスの影響で小学校に行き活動することはできませんでした。そのため、一緒にボランティア活動をしている仲間と直接学校に行かなくてもできることを考え、Zoomで活動したりクイズ式のカレンダーを作成したりして子どもたちが楽しめるようなことをしました。Zoomを通して、子どもたちが楽しそうに活動している姿や先生方からクイズ式カレンダーをまたやってほしいと言ってもらえたことがとても嬉しかったです。直接学校に行けなくても、工夫次第で内容の濃い活動にすることができるのだなと思いました。また、そのときの状況に合わせ、子どもたちが楽しめる活動を考え実行することが大切だと感じました。

フードパントリー活動

学内ボランティアクラブのさくらレオクラブが中心となりコロナ禍で困窮しているご家族や学生を対象としたフードパントリー活動を行いました。

物資は主に企業や家庭などで余っている食料品等を必要とする方に届けている NPO 法人「ふうどばんく東北 AGAIN」よりご提供いただき、学内での仕分け作業や梱包・配達を行いました。



[この活動は公益財団法人パブリックリソース財団「コロナ給付金寄付プロジェクト」よりご支援いただきました。]

◆ボランティア・各プロジェクトについてのお問合せは MG-LAC までご連絡ください。

宮城学院女子大学リエゾン・アクション・センター (MG-LAC)

〒981-8557 宮城県仙台市青葉区桜ヶ丘 9-1-1

TEL: 022-279-1340 FAX: 022-279-5876 E-mail: lacvolu@mgu.ac.jp

MSJC

[6名]



スポーツが大好きなメンバーが宮城のスポーツの素晴らしさやスポーツ観戦の魅力を学内外に発信しています

横澤 萌佳 | 人間文化学科 3年

私たちの活動はプロスポーツチームの協力があって初めて成立するため、コロナの状況下では活動が停滞してしまうという不安がありました。そんな中、東北楽天ゴールデンイーグルスが私たちの活動にご協力いただき、メンバーが願っていた取材をすることができ、球団職員を目指すメンバーにとっては夢のような時間を過ごすことができました。取材した内容をまとめた冊子も先方からご好評をいただいたことで、達成感ややりがいを感じることができました。また、コロナ禍でもできる活動として、SNSやラジオ局での発信などの広報活動にも力を入れてきました。冊子をfmいずみに設置していただき、より多くの方に活動を知っていただくきっかけとなりました。MSJCの活動にご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

LGBTQ等セクシュアルマイノリティの啓蒙活動を通して性の多様性を広めます

後藤 加奈 | 日本文学科 3年

今年度はLGBTQに関連する他大学の団体とのオンライン交流会にたくさん参加することができました。オンラインでの活動が浸透しつつあった5月には奈良女子大学の「SOGIサークルならていぶ」と情報共有を目的に報告会を行いました。女子大学という同じ環境ではありますが、それぞれの活動の違いを知ることができ、この報告会がきっかけとなり大学図書館に「性の多様性に関する本の展示コーナー」を設置するという活動を計画し実施することができました。

コロナウイルスの渦中ではありましたが、プロジェクト内の勉強会と学外団体との交流の両方を実行することができ、改めて性の多様性について再認識することができた1年でした。



にじいろプロジェクト

[11名]

スポーツをする成長期の子どもの食事

スポーツをする子ども達を支えるのは、毎日の食事です。どんなに練習を頑張っても、栄養が不足した状態では運動パフォーマンスが落ちるだけでなく、成長にも影響しかねません。子ども達の健やかな成長のため、食事で十分なエネルギーを補給するとともに五大栄養素をバランスよく取り入れることが大切です！

<エネルギー補給の考え方>

生活のためのエネルギー量 + 発達・発育のためのエネルギー量 + 運動のためのエネルギー量

<成長期に必要な5大栄養素>

- ①たんぱく質: 筋肉、神経、骨などの組織や血液の材料になります。
- ②炭水化物: 体と脳を動かせるエネルギー源になります。
- ③脂質: 体温の維持やビタミンの吸収を助けるはたらきがあります。
- ④ビタミン: 体の機能を正常に保つのに必要です。
- ⑤ミネラル: 体の機能を正常に保つのに必要です。

「バランスのよい食事が大切。とはいっても、実際になにをどれくらい用意すればいいのやら...」

A. 食事バランスガイドを活用しよう

食事バランスガイドとは主食・副菜・乳の5つの区分ごとに、1日に必要な食事量と「どれだけ」食べたらよいかをコマで表現したものです。

※「つ@V」とは、食事バランスガイド独自の単位であり、食事の量を分かりやすく表しています。

※スポーツをしている小学生に必要な「つ@V」量
食事の適量（どれだけ食べたらよいか）は性別、年齢によって異なります。

Sp@t A You

[23名]

スポーツ栄養について学びを深めながら学外のスポーツチームに継続的な栄養サポートを実践しています

岸 優奈 | 食品栄養学科 3年

今年度は対面や学外での活動を行うことが難しいなか、TeamsやLINEなどのオンラインツールを使ってプロジェクトメンバー同士でコミュニケーションをとりながらリーフレットの作成や栄養情報の配信などを行うことができました。

知識を文章にまとめる力を身に付けることができた反面、昨年度まで行っていたスポーツ選手と直接関わる栄養サポートをすることができませんでした。そのため、現場で学べることや現場の声を聞くことが無く、一方的な栄養支援になっていたと考えられます。今後はリーフレットや栄養情報の配信後にアンケートをとることで、選手の感想や悩みなどを聞き、意見を反映することでより充実した活動にしていきたいです。

学生が自主的に企画・運営するプロジェクト活動

楽食プロジェクト [22名]



食を通して楽しく豊かな学校生活を送れるように学生食堂のオリジナルメニューを考案しフェアを定期的で開催しています

鈴木 里音 | 食品栄養学科 2年

新型コロナウイルスの影響があり後期からの活動となりました。学食を利用する学生数が少なくなることが懸念される中で、昨年度と大きく変えた点は2点あります。1点目はテイクアウトに対応できるように丼物や麺類に絞ってメニューを考案したことです。2点目はラッピングやSNS映えを意識したデザートに力を入れました。その結果、デザートは数分で売り切れるものがあるくらいのご好評をいただきました。思ったように活動ができず苦労したこともありましたが、私たちの活動が少しでも学校生活を豊かにできていたのかなと思ひ、やりがいを感じています。今年度の活動を活かし、来年度も学生の皆さんに喜ばれる活動を続けていきたいです。

中古教科書の回収・販売により得られた利益を途上国の子どもたちへの教育支援事業に寄付しています

瀧 由紀乃 | 英文学科 3年

今年度は思うように活動できず、もどかしく感じる事が多くありましたが、制限がある中でも新入生に SFT について知ってもらうために Zoom で相談会を行ったり、SNS での広報を活発に行うなど、状況に応じてできる範囲での活動を続けてきました。教科書の販売・回収に関しては、残念ながら販売会を行うことはできませんでしたが、回収 BOX の設置や呼びかけを続けた結果、たくさんの教科書を寄付していただくことができました。初めてのことが多く、手探りでの活動になってしまいましたが、新しい状況に対応することの大切さや難しさを学びました。今後は集めた教科書を販売することができるように新しい生活様式に適應した販売方法を模索していきたいと考えています。

国際支援活動 Triangle チーム STUDY FOR TWO [14名]



国際支援活動 Triangle チーム TABLE FOR TWO [5名]



先進国と途上国の食の不均衡をなくすために学生にもできるサポートプログラムへの参加や呼びかけを行っています

西野 桃子 | 人間文化学科 2年

当初計画していた活動である、おにぎりを作って写真を投稿することで途上国へ寄付ができる「おにぎりプロジェクト」が新型コロナウイルスの関係で中止となりましたが、代わりにおりがみでおにぎりを制作し SNS に掲載するという代替案で、プロジェクトに参加することができました。「国際支援」と聞くと難しく手の出しづらい印象でしたが、SNS 投稿で支援になるプロジェクトであったため、とても気軽に参加できました。と同時にこんなに簡単に参加できるなら、参加の呼びかけに注力するべきだったとも感じました。

今年度は他団体との交流など新しい活動にチャレンジができ、行動に制限はありましたが、去年よりも収穫の多い充実した活動となりました。



国際支援活動 Triangle チーム Plan [10名]

国際問題やその支援について勉強会や学内講演会を通して学びを深めたり未使用・書き損じハガキの回収を通して国際支援をしています

山上 奈津季 | 人間文化学科 3年

私たち国際支援活動 Triangle チーム Plan は、世界の教育の現状について知り、一人でも多くの途上国の女の子の助けとなるよう、学生の視点から女性の国際問題を理解していくことを目的に活動しています。

今年度は、国際支援に関する勉強会を月二回実施しました。また、12月にはプラン・インターナショナル・ジャパンより講師をお招きしオンライン講演会を開催しました。3月には毎年行っているはがき回収作業を行いました。

対面での活動がままならない期間もありましたが、今年も講演会やはがき回収プロジェクトができ、とても嬉しく思います。私たちの活動に関わってくださった先生方や職員の皆様、地域の方々にこの場をお借りし御礼申し上げます。

被災地復興支援の一環として、石巻市立大原小学校にて日常の学習支援やイベント開催などのボランティア活動を行います

木村 紀香 | 教育学科 児童教育専攻 3年

今年度は、コロナの影響もあり従来通りの活動があまりできませんでした。オンライン交流会やクリスマス会など、様々な企画を実行することができました。子どもたちの笑顔をたくさん見ることができ、私たちもとても嬉しかったです。また、数回ではありますが小学校に直接行って子どもたちと交流することもできました。子どもたちは、いつも弾ける笑顔で出迎えてくれます。そして、たくさんお話をしたり外で一緒に遊んだりします。私たちが来ることをずっと心待ちにしてくれる児童もいます。帰る時には「次いつ来るの?」と聞いて来る子や、泣いてくれる子もいました。子どもたちから「また来てね」と言われる関係を築くことができ、この活動を継続してよかったと思いました。後輩の皆さんにはこれからもこの活動を継続して欲しいと思います。母校に3年間継続してボランティアという立場で関わることができ、本当に嬉しいです。



大原小学校ボランティア [13名]



小さな図書館プロジェクト [13名]

自由に貸出・寄付ができる本棚を学内に設置し気軽に本に触れることができるよう「小さな図書館」を運営しています

松浦 朱里 | 日本文学科 2年

コロナ禍での活動ということで今年度はどうしていくか悩んだことも多くありましたが、前期は新たな2年生や新入生を迎えメンバーが13名になり、『ミヤガク新報』での連載企画を行なうなどプロジェクトとしても大きな経験や学びを得ることができました。後期からは、昨年度と同様に小さな図書館の運営をはじめ他のプロジェクトとのコラボも実施し、プロジェクトとして何が出来るかをメンバーと案を出しあったり考えることができました。来年度以降も継続的に活動を行なっていくため、引き続き新メンバーの募集や、さらに活動の幅を広げていけるような取り組みをメンバー一丸となって模索し活動していきます。

Food and Smile! [35名]



「食を通じて人々を笑顔に!」をモットーに、災害食レシピの考案や学外での料理教室などを通じて、災害食の理解と普及を目指します

三浦 絵里香 | 食品栄養学科 3年

新型コロナウイルスの影響により一年間を通して、外部の方からの依頼も減少し料理教室などの活動が難しく、多くの困難がありました。ですが、今までの活動の振り返りやFASの活動を知ってもらうためにはどのような工夫が必要なのかなどについて、改めてFAS全体で考えることのできた良い機会となりました。

前期は全体での活動がほとんどできない状態であったため、各自で取り組めるような媒体作成やレシピ開発などの活動を取り入れました。普段はできないような活動にも力を入れることにより、一人一人の知識の向上に繋げることができたのではないかと感じました。後期になり徐々に外部の方からの依頼を受けるようになり、全体としての活動を始めることができました。コロナ禍だからこそできる活動をメンバーで考え、工夫して活動を行えるように努力できたと思います。

病気の子も達とご家族の滞在施設ドナルド・マクドナルド・ハウスさんだいで一緒に菓子作りをすることでほっとする時間を提供しています

水越 杏莉 | 食品栄養学科 3年

2020年度は異例の事態となり、例年のような活動ができませんでした。大変な状況が続く中、“利用者様に少しでもお菓子作りで明るい気持ちになって欲しい”という気持ちが一緒であるメンバーとアイデアを出し合い、レシピカードを郵送する形で活動を続けてきました。

施設の方からの温かいお言葉や、今年度から開設したInstagramで以前お菓子作りに参加して下さったご家族から応援メッセージなどをいただき、多くの方々に支えられている活動であることを改めて感じた1年でもありました。

活動を通し、どのような状況でも楽しく作ること、食べることは誰かを元気にすることや明るい気持ちにさせてくれるなど、食が持つ力を実感しました。



Heartful Sweets [22名]

MGPR [4名]



大学図書館は3階建ての建物で

オープンキャンパスでのキャンパスツアーを通して中高生を中心に宮城学院女子大学の魅力を発信しています

笹原 愛里 | 日本文学科 3年

今年度は活動の制限により、オープンキャンパス自体の開催が難しい状況でした。そんな中、新たな試みとしてオープンキャンパスがリモートで行われ、高校生からの相談コーナーとキャンパスツアーの動画を収録したオンラインキャンパスツアーを参加者に公開することができました。キャンパスツアーの動画は無事に公開することが出来ましたが、相談コーナーは予想より利用していただく人数が少なかったことが課題となりました。

今年度はあまり思ったような活動が出来ず、メンバーの少なさにより活動を制限される場面も多くなりましたが、リモートによる活動の欠点や改善点を見つけながら、今後はより幅広く活発に活動をしていきたいと思えます。